

令和4年度第2層地域支え合い推進員活動

茅ヶ崎市社会福祉協議会では地区担当職員が市内13地区の支え合い推進員として、様々な活動に携わっています。令和2年1月に新型コロナウイルス感染症が日本で確認されてから、3年目を迎えた令和4年度は様々な活動が再開された1年となりました。

この報告では①居場所（ミニデイ・サロンなど）、②行事・イベント・講座、③担い手の確保 の3つのポイントを中心に行います。詳しい状況は次の通りです。



～居場所(ミニデイ・サロンなど)について～

令和4年度は多くのサロンで再開を目指す動きが見られました。一例として、早い地区では5月に「子育てサロン ぽっかぽか」(小和田)、6月には「コミュニティサロン」(湘北)、「ほのぼの小出」(小出)など、多くのサロンが再開しました。その後も再開の動きは広がり、11月には「歌の街」(湘北)など、これまで控えられていた「歌う」サロンも再開しました。

また、市内13地区に設置されている地区ボランティアセンターの拠点を活用した新たな取り組みとしての「南湖喫茶ぼらぼら」は5月のオープン以来、地域で気楽に集える場となっており、浜須賀ではかねてより運営されていた「カフェ庵」に加え、新たに「ほっとスペースいおり」、鶴嶺東では「ま～る」など、独居や何かしら事情のある方が集える居場所になっています。

一方、この3年間で20を超えるサロンが、スタッフや参加者の高齢化、指導者の不在など様々な理由で閉会となりました。また、継続はできても「飲食はしない」「人数を制限する」等、活動内容を変更せざるを得ない事例も多く報告されました。会場が使用できないなど様々な事情で、令和4年度も引き続き中止せざるを得ないサロンも見られましたが、多くのサロンでは、中止に伴い電話連絡も行っており、それが安否確認につながりました。話すことができ、参加者に喜ばれたとの報告も多くあげられています。

閉会するサロンがあった一方で、新たにスタートしたサロンもあります。サロンを立ち上げたい方へは、立ち上げマニュアルを用意し、補助金の交付などの支援をしております。一緒に考え活動していきます。サロン活動をお考えの方は、ぜひご相談ください。

【令和4年度に助成金を活用して立ち上げられたサロン】

「みんなの家 in 茅ヶ崎」(茅ヶ崎)、「麻雀サロン海岸」(海岸)

「南湖喫茶ぼらぼら」(南湖)



～行事・イベント・講座などについて～

行事やイベントについては、準備を重ねたものの実施できなかったものもありますが、開催に至ったものも多く、「お楽しみ交流会」（茅ヶ崎、茅ヶ崎南）、「ひとり暮らし高齢者昼食会」（鶴嶺西）、「セカンドライフを楽しむ会」（湘北）、「福祉バザー」「福祉の集い」（小和田）、「敬老の集い」（浜須賀）、「敬老祝い会」「福祉講座」（小出）などが多数報告されました。

地区社協主催の行事やイベント以外にも「コミセンまつり」や「公民館まつり」なども多く再開され、こうした催し物への参加・出店も報告されました。こうした地区の催し物の再開には、「歌体操教室ねぼし」など市が主催する講座や教室の再開も一助になっていると考えられます。

また、市社協においても、ボランティア連絡会やボランティア大学が3年振りに開催されるなど、行事やイベントの開催に大きな動きがありました。各団体とも、行事・イベントは、各々の活動の周知・PRの大事な機会であり、開催にあたっては、広報活動もあわせて行われていました。

多くの地区でスマホ講座が始まりました。「スマホ教室」「スマホちょこっと相談」など、地区によって名称も学ぶ内容も様々ですが、「楽しく教え合い交流すること」「活動に便利な機能を習得し活かすこと」を主な目的としています。講師はVCでスマホに詳しい方や市・市社協の職員で、生徒は地区社協やVCの方が中心ですが、将来的には地区の方々へも広げていくことを前提として活動を始めました。拠点を活用する取組みでもあり、回を重ねている地区も多く、更なる展開が期待されます。



「福祉バザー」



「スマホ教室」

～担い手の確保について～

担い手の確保は長年の課題であり、令和4年11月21日に開催されました、茅ヶ崎市生活支援体制整備事業第1層協議体でも切実な問題として取り上げられました。市社協を含め、各地区とも以下2つの視点を中心に、人材確保に努めています。

1 活動を知ってもらう

地区の活動を知ってもらうために様々な取組みをしています。(以下取組みの一例です)

- 広報誌で特集「夏休みボラセンへ行こう」(市社協) *ボラセン=地区ボランティアセンター
市社協では広報誌で「夏休みボラセンへ行こう」特集を掲載し、7月8月を「夏休み VC へ行こう 月間」としました。地区VCには、広報を見てVCを訪問する市民の方がいることを想定し、VCの紹介などが円滑にできるよう情報共有し動画撮影も行いました。
- ボラダス SNS 発信プロジェクト (市福祉政策課・市社協)
市福祉政策課と市社協が協働し、YouTube、InstagramなどのSNSで、地域福祉の魅力や情報を発信しているものです。内容は、「1分でわかる地区ボラセン」といった動画や、地区活動の様子を撮影した動画、地区VCの方のインタビュー動画など、多種多彩です。公式YouTubeチャンネルのほか、市の動画ライブラリーにも掲載されています。
※「ボラダス」は、**ボランティア**に**一歩踏み出す**
- ボランティア大学(茅ヶ崎ボランティア連絡会・市社協)
市社協では茅ヶ崎ボランティア連絡会と共催で、5月～6月にかけて「ボランティア大学」を開催しています。(全7回)。令和4年度は3年振りの開催となりました。この講座はボランティア初心者に向けての講座で、受講後には各ボランティア団体で活動する方も多くいらっしゃいます。(令和2年、3年は開催できませんでした。)
- 福祉大会、様々な行事、イベントの際PRしています。(市社協)

各地区で、「活動時にボラセンの名前入りジャンパーなどを着用する」(茅ヶ崎)、「ベンチを制作しボラセン前に設置」(茅ヶ崎南)、「募集ちらしを作成し、配布する、あるいは市の掲示板に掲示してもらう」、「在宅高齢者実態調査の際、ボラセンのパンフレットを民生委員さんに配布していただいた」(茅ヶ崎)、「自治会の協力を得て、アンケートを全戸配布した」(小出)、地域の行事、イベントで必ずPRするなど、様々な取組みを行っています。



また、第1層協議体ではワークを行い、「対象年齢に応じた広報を工夫する」「子どものうちからボランティアに接することが必要」など様々な貴重なご意見をいただき、各団体に持ち帰ってもらいました。

2 活動を続けていただけるような様々な工夫

- 特技や資格、できること、得意なことを活かした無理のない活動をしてもらう。
 - ◇力仕事がつづくなってきた時には、別の活動を担っていただく。
 - ◇PCに詳しい方には広報、ホームページ作成、スマホに詳しい方にはスマホ教室の講師など。
- 学びの場の創出
 - ◇様々な勉強会・研修会・講習会を行うことで活動により興味を持っていただく。
 - 例：車いす体験、障がい理解に関する講話、成年後見制度等について説明を、認知症の理解、教育関係者から子どもに関する講話など
- 「楽しく活動する」ために、交流会、懇談会等を行う。
- モチベーションを高めていただくために…
 - ◇ボランティアポイントの導入（小和田）。
 - ◇長年活動してくださった方へこれまでの労をねぎらい表彰する。
- 活動が一部のSPに偏らないよう、Coには調整を工夫していただく。LINEなどを調整に活用し、活動の偏りを防ぐとともにCoの調整業務の負担減も図る。

担い手確保とスマホ教室

これまでの活動は買物・草取り・通院付き添い・電話相談など、地区の方と直接関わるものでしたが、スマホ教室は活動する方々の交流という側面を持ち、「スマホが得意です、PCが得意です（外での活動は苦手だけど…）」という方の活動の場とその周知としても大きな意味があり、人材確保の手段としての可能性も見出せました。



活動時はおそろいのジャンパーでPR！



「南湖喫茶ぼらぼら」では
美味しいコーヒーが飲めます



公式YouTubeチャンネル
「ボラダス」

各地区ではこのような活動が展開されていました。
気になること、わからないこと、活動をはじめたいがはどうしたらいいかわからないこと
などありましたら、ぜひ第2層推進員へお声かけください。一緒に考えていきましょう。



ちがき農協
えほし麻呂